

森 正樹, 土岐祐一郎 (編)

レジデントのための 消化器外科診療マニュアル

國土典宏

東大大学院教授・肝胆膵外科学

手に取ってみて、まず持ちやすく開きやすい診療マニュアルだと感じた。白衣のポケットに入れるには少し大きいかもしれないけれど、病棟や外来、医局の机の上にこんな本が一冊あっても良い。若い世代はスマートフォンやタブレット端末を好むかもしれないが冊子体も良いと思う。

帯に「外科医に必要な知識とデータを凝縮、頼りになるコンパクトガイド」とあるように、消化器外科で遭遇する全領域の疾患をカバーして最新の情報が詰め込まれている。各疾患の診断基準、ステージングやガイドラインなどが要領よくまとめられている。最後に外科的事項という比較的長い項目があり、手術方法などを豊富な図や写真を使い詳細に解説してある。マニュアルだから多くの図は入れにくいだろうというのが常識だが、上手に図をふんだんに入れているところが素晴らしい。膵頭十二指腸切除などの記述は本格的な手術書並である。本書は一部を除き二色刷りだが、他の類書に比べて全体にカラフルな感じを受ける。また、サイドメモが所々にあり、手術のコツや用語の解説が簡潔になされているのも特徴であろう。

類書のマニュアル本に比べて「処

方例」などの記載は少ないので、ベッドサイドに常時携帯するレジデント虎の巻というよりは、術前カンファランスや患者へのインフォームド・コンセント直前の知識の整理に使うのが最も勧められる本書の活用法ではないか。前半の総論部分は通読するのも良いくらいまとまっているし、読みやすい。

ここまで褒めすぎたかもしれないので、あえて注文をつけると、索引機能がもう少し充実していれば素早い検索ができるかもしれない。本書のスマートフォン版を作ればよいという意見もあるだろう。日本語用語に英語をどこまで附記するのか、この判断も難しかったと思う。また、手術写真について、カラー写真は美しく見やすいが、一部の白黒写真はやや見づらいのですべてカラーにしてほしいところである。各論項目については筆者の専門領域について特に詳しく拝見したが、肝疾患の章に転移性肝癌の項がないのが少し残念であった。最近大きく進歩しているホットな領域で教科書的に書きにくい領域かもしれないが、ぜひ改訂時に考えていただきたい。

また、サイドメモで胃癌に関する有名な臨床試験であるJCOG9912、SPIRITS試験、ToGA試験などを

取り上げているのは専門外の医師にとってむしろありがたいと思った。ただ、大腸癌、膵癌など他の領域にこれに対応するサイドメモがないので、ページ数の問題もあろうが次回改訂時に検討していただきたいと思う。サイドメモでは書ききれないとおしかりを受けるかもしれないが、森正樹教授ご専門の癌幹細胞についてもサイドメモをリクエストしたい。「レジデントのための」と銘打ってはいるが、序文にあるように本書は中堅以上の指導者の知識の整理にも大いに役立つだろう。最新の情報が詰まっているので、特に専門外領域の最新知識の取得に便利である。ただ、最新の情報は、出版した瞬間からどんどん古くなってしまうのが宿命である。大変かもしれないが、短いスパンでの改訂作業を期待したい。

この素晴らしい消化器外科マニュアルを一門だけでまとめ上げた大阪大学外科同窓諸兄の総合力に敬意を表しつつ、すべての消化器外科医に本書を推薦したいと思う。

●A5変型/頁480/2012年/定価5,670円
(本体5,400円+税5%)

[ISBN978-4-260-01658-2]

医学書院 刊